

師範學校  
編輯

日本畧史

上

書 籍		
冊 數	冊 數	冊 數
二	一	五
學 校	縣 中	滋 賀

Z10.1  
155  
Vol. 1

師範學校編輯

# 日本畧史

明治八年四月 文部省刊行



日本畧史

凡例

小學生徒ハ受業ノ時間ニ定期アルヲ以テ授ク  
 ル所ノ書皆簡略ヲ主トス故ニ此編ニハ神代及  
 御諱山陵等ヲ省キテ文中ニ御奉給等ノ文字ヲ  
 缺ク其ノ紙張ヲ減センコトヲ欲スレハナリ  
 飯豐天皇ヲ歷代ニ列セサルハ古事記及日本紀  
 ニ據ル  
 長慶天皇ハ新葉集ノ序ニ據リテ亦歷代ニ列セ  
 凡例

遣唐使遣新羅使ノ類ハ事故アルニ非レハコレ  
ヲ省ク諸臣ノ官位及其ノ姓ヲ記サ、ルモ亦簡  
略ヲ主トシレハナリ

日本略史

文部省刊

日本略史上卷

神代卷ノ事、皇極ノ記、素戔嗚尊、天孫降臨、  
神代卷ノ事、皇極ノ記、素戔嗚尊、天孫降臨、

第一代神武天皇ハ天照大神五世人孫ニシテ、

鷦草葺不合尊ノ子ナリ、

天祖天照大神ノ子天忍穗耳尊ト稱ス、天忍

穗耳尊、彥火瓊杵尊ヲ生ク、天祖高天原ニ在

リ、天武甕槌、經津主人、二神ニ命テ、葦原中國ヲ

日本國ノ古名ナリ、平定セシメ、皇孫彥火瓊杵尊ヲ賜

フ、三種ノ神器ヲ以テ、其以國ヲ降ルル

テ、主トス、彦火瓊杵尊、日向國ニ居リ、彦火々  
出見尊ヲ生ス、彦火々出見尊ノ子ハ、即、鸕鷀草  
葺不合尊ナリ

天皇、生ナガラエレテ、明達ナリ、年十五ノ時ニ、立  
チテ太子トナリ、後、倭、橿原宮ニ治ス、○初、天皇、日  
向ニ在リテ、諸兄及皇子等ニ告グテ曰ク、昔、天神  
此豐葦原瑞穗國日本國ノ古名ナリヲ、我方天祖ニ授ケ  
ヨリ、降リテ、西偏ニ居ルコト、多ク年所ヲ歴タリ、  
獨奈何ヒシ、遼遼ノ北、未、玉澤、露ハ又、邑ニ君ア  
リ、村ニ長アリ以テ相陵轢スハラフ、吾、將ニ東征レ

テ都ヲ中州ニ定メ、以テ天業ヲ敷、  
欲スト、乃、親、皇族ヲ帥キテ、舟師東ヲ指シ、筑紫安  
藝、吉備等ノ國ヲ經テ、難波ヨリ、河内ニ到リ、倭ニ  
入ラントス、長髓彦ト云フ者アリ、衆ヲ惑ヒテ、口  
ヲ拒グ、皇軍利フテズ、因リテ、轉シテ、路ヲ紀伊  
ニ取リ、丹敷戸畔ス、荒坂津ニ誅シ、頭八咫鳥ヲ以  
テ、鄉導トシ、菟田下、縣ニ至リ、兄錯ヲ誅シ、又、兄磯  
城等ヲ斬リ、遂ニ長髓彦ヲ征ス、是ヨリ先、饒速日、  
命、天ヨリ降リテ、倭ニ居ル、長髓彦、コレヲ奉リ、  
主トシ、皇軍ヲ抗ス、是ニ於テ、饒速日、命、長髓彦ヲ



殺レテ降リ中州畿内  
 天皇乃宮ヲ倭宮火糧原  
 一經營レテ帝位ニ即ク  
 寔ニ辛酉ノ年ナリ明治  
 五年十一月詔レテ太陰  
 曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用ル  
 此大歲ヲ以テ紀元トス  
 即今明治七年ヲ距ルコ  
 ト二千五百三十四年十  
 月〇天皇在位七十六年

ニシテ崩ス年百二十七

第二代綏靖天皇ハ神武天皇ノ子ナリ天皇ノ廢  
 兄手研耳命陰ニ不軌ヲ圖ル天皇コレヲ覺リテ  
 同母兄神八井耳命ト謀リコレヲ誅ス〇葛城ニ  
 都スコレテ高岡宮トイフ在位三十三年ニシテ  
 崩ス年八十四

第三代安寧天皇ハ綏靖天皇ノ子ナリ都ヲ片鹽  
 ニ遷スコレテ浮穴宮トイフ在位三十八年ニシ  
 テ崩ス年五十七

第四代懿德天皇ハ安寧天皇ノ子ナリ都ヲ輕ニ

遷ス、コレヲ、曲峽宮トイフ、在位、三十四年ニシテ  
崩ス、年七十七、

第五代、孝昭天皇ハ、懿德天皇ノ子ナリ、都ヲ掖上  
ニ遷ス、コレヲ、池心宮トイフ、在位、八十三年ニシ  
テ崩ス、年百十四、

第六代、孝安天皇ハ、孝昭天皇ノ子ナリ、都ヲ室ニ  
遷ス、コレヲ、秋津島宮トイフ、在位、百二年ニレテ  
崩ス、年百三十七、

第七代、孝靈天皇ハ、孝安天皇ノ子ナリ、都ヲ黒田  
ニ遷ス、コレヲ、廬戸宮トイフ、在位、七十六年ニシ

テ崩ス、年百二十八、

第八代、孝元天皇ハ、孝靈天皇ノ子ナリ、都ヲ輕ニ  
遷ス、コレヲ、境原宮トイフ、在位、五十七年ニレテ  
崩ス、年百十六、

第九代、開化天皇ハ、孝元天皇ノ子ナリ、都ヲ春日  
ニ遷ス、コレヲ、率川宮トイフ、在位、六十年ニシテ

崩ス、年百十五、

第十代、崇神天皇ハ、開化天皇ノ子ナリ、都ヲ磯城  
ニ遷ス、コレヲ、瑞籬宮トイフ、天皇、神祇ヲ尊崇レ、  
皇女豐鍬入姫命ヲ、天照大神ヲ、倭ノ笠縫、邑

ニ、祀ラシム、初、大神、寶鏡ヲ、皇孫ニ賜ヒテ、コレヲ  
殿内ニ奉ゼシム、是ニ至リテ其ノ威ヲ瀆サシコ  
トヲ畏ル、故ニ、コレヲ遷レ天別ニ、鏡劍ヲ模造セ  
シメ、御座ニ置ク、又天祖、國社、ヲ定ム、○將軍ヲ北  
陸、東海、吉備、丹波ノ、四道ニ遣ハス、會、武埴安彥反  
ス、討チテコレヲ平ク、○始メテ、人民ヲ校レテ、以  
テ調役ヲ課ス、又諸國ニ令レテ、船舶ヲ造ラシム、  
任那國、始メテ來貢ス、○天皇、深ク心ヲ民事ニ用  
キ、天下大ニ治ル、民稱レテ、御肇國天皇トイフ、在  
位、六十八年ニシテ崩ス、年百十九、十六年ニ

第十一代、垂仁天皇ハ、崇神天皇ノ子ナリ、都ヲ遷  
向ニ遷スコレヲ珠城宮トイフ、○皇后、狹穗彥ノ  
兄、狹穗彥、不軌ヲ圖リ、皇后ヲ誘ヒ逆ヲ行ハレノ  
シトス、皇后實ヲ天皇ニ告ク、天皇、八綱田ニ命レ  
テ、コレヲ討タレハ、狹穗彥拒守ス、皇后、兄ヲ救ハ  
シコトヲ欲レ、皇子、譽津別尊ヲ、抱キテ城中ニ投  
ズ、八綱田、火ヲ縱チテ、城ヲ焚ク、皇后乃、皇子ヲ出  
ダレテ、兄ト共ニ、城中ニ死ス、○新羅國ノ王子、天  
日、擔來リテ、鏡、玉、刀、鉾等ヲ獻ス、○皇女、倭姬命ヲ  
レテ、豐鍬入姬命ニ代ヘテ、天照大神ヲ、祀ラシム、

倭姫命、神教ニ隨ヒテ、祠

ヲ伊勢ノ度會ニ遷ス。○

詔シテ、殉死ヲ禁テ、野見

宿禰、上偶ヲ造リテ、殉ニ

代ヘムコトヲ請フ、天皇、

コレヲ嘉レテ、立テテ、永

割トシ、土師臣ノ姓ヲ賜

フ、野見宿禰、嘗テ倭ノ當

鷹蹴速トカヲ角ベテ、コ

トク、是、朝廷相撲、俗稱、天皇ノ子ナリ、

野見宿禰、土師ヲシテ、  
上偶ヲ作ラシムルヲ圖



倭ノ權輿ナリ。○天皇在位九十九年、  
年百三十九、

第十二代、景行天皇ハ、垂仁天皇ノ子ナリ、纏向

都スコレヲ、日代宮トイフ。○筑紫ノ熊襲反ス、天

皇親征シテ、コレヲ平メ、既ニシテ、熊襲再反ス、皇

子、日本武尊ヲシテ、コレヲ討タレム、皇子時ニ年

十六、女装シテ、賊巢ニ入り、其ノ首ヲ刺ス、餘衆咸

服ス、又皇子ヲシテ、東夷ヲ征セシム、皇子乃、伊勢

ニ到リテ、神宮ヲ拜ス、倭姫命、授ルニ、叢雲劍、及、熒

袋ヲ、以テ、大皇子、駿河國ニ到ル、虜伴、降ル、天皇



子ヲ誘ヒ、游獵セシメ、火ヲ放テ、其ノ野ヲ焚ク。皇  
 子、燧ヲ以テ、火ヲ出ダシ、コレヲ逆ヘ、燒キ、劍ヲ  
 キテ、草ヲ薙ギ、頼リテ以テ、免ル。コトヲ得タリ、  
 是ヨリ、叢雲劍ヲ改メテ、草薙劍トイフ。今猶熱田  
 ノ神宮ニ祀ル者、是ナリ。皇子、遂ニ進ミテ、相摸ヨ  
 リ、上總ニ航セントス。海上暴風ニ遇ス。妃橘媛神  
 ニ祈リテ、海ニ投ス。暴風即止。船岸ニ達スルコ  
 トヲ得タリ。皇子、進ミテ、蝦夷ノ境ニ到ル。賊皆風  
 ラ望ミテ、降り、邊境悉平ク。皇子、還リテ、碓日嶺ニ  
 登リ、東南ヲ顧ミ、橘媛ヲ追慕シ、歎レテ曰ク、吾孀  
 者耶。山東ノ諸國、コレニ因リテ、今猶吾孀國今  
國ニト稱ス。皇子、伊吹山ニ至リ、山神ノ毒氣ニ中  
作ルリテ、病ム。乃夷侍ヲ、伊勢ノ神宮ニ獻テ、吉備武彦  
 ラレテ、京ニ復命セシメ、遂ニ、伊勢ノ能褒野ニ薨  
 ス。時ニ年三十。天皇、大ニ悼惜シ、其ノ功ヲ録シ、  
 武部ヲ定ム。○天皇、近江國ニ幸シテ、志賀ニ居ル  
 コト。三年、コレヲ、高穴穗宮トイフ。在位、六十年ニ  
 レテ崩ス。年百四十三。

第十三代、成務天皇ハ、景行天皇ノ子ナリ。高穴穗  
 宮ニ即位ス。武内ヲ大臣トス。大臣ヲ置クコト。此

ニ始マル、國郡ニ造長ヲ立テ、縣邑ニ稻置ヲ置キ、  
山河ヲ界ヒテ、國縣ヲ分ツ在位、六十年ニシテ崩  
ス、享年未詳

第十四代仲哀天皇ハ、景行天皇ノ孫ニシテ、日本  
武尊ノ第二子ナリ、大伴武以ヲ、大連トス、大連ヲ  
置クコト、此ニ始マル、天皇、皇后ト、越前ノ角鹿ニ  
幸ス、既ニシテ、皇后ヲ留メテ、紀伊ニ巡狩ス、會熊  
襲反ス、天皇親征シテ、長門ニ至リ、宮室ヲ造リテ、  
コレニ居ル、コレヲ豐浦宮トイフ、皇后モ亦至ル、  
與ニ進ミテ、筑紫ニ幸レ、香椎宮ニ居リ、群臣ヲ會

レテ議ス、時ニ神アリ、皇后ニ憑リテ曰ク、熊襲  
如キハ、師旅ヲ勞スルニ足ラス、西方ニ蠻國アリ、  
新羅トイフ、モレ能ク我ヲ祭ラバ、其ノ國必服レ  
テ、熊襲モ亦自從ハント、天皇信ゼズ、數月ヲ歷テ、  
香椎宮ニ崩ス、在位九年、享年未詳  
第十五代神功皇后ハ、仲哀天皇ノ后、開化天皇ノ  
五世ノ孫ニシテ、氣長宿禰王ノ女ナリ、磐余ニ都  
ス、コレヲ若櫻宮トイフ、○皇后仲哀天皇ノ崩ス  
ルニ及ビテ、大臣武内ト謀リ、秘ニテ喪ヲ發セズ、  
神教ヲ奉ヒテ、西征セントス、會身ヲルコト有

日本書紀 上卷 八 文部省



テ、産月ニ當ル乃石ヲ腰  
 一捕、祝シテ曰ク、願ク  
 ハ、事竟ヘテ還ラム日ニ、  
 茲土ニ媿ヒレヌヨト、遂  
 ニ新羅ヲ征ス、新羅王出  
 デ、降リ金銀絹帛ヲ船  
 八十艘ニ載セテ獻ス、コ  
 レヲ調貢ノ定額トス、是  
 ニ於テ高麗百濟ノ二國  
 王モ亦降ル、コレヲ三韓

國、在、今、之、朝、鮮、國、是、古、之、皇、后、國、也、又、宣、家、略、置、  
 於、邊、外、及、築、紫、云、到、皇、子、乃、產、云、是、應、神、天、皇、也、  
 仁、皇、后、朝、于、隕、皇、政、又、捕、ス、ル、コ、ト、云、云、十、九、年、云、云、  
 六、前、云、年、云、云、百、云、云、皇、后、云、云、  
 第十六代應神天皇、以仲哀天皇ノ子ナリ、輕高、  
 部、可、以、力、豐、明、宮、ト、云、皇、太、后、ヲ、捕、政、云、年、太、  
 立、力、テ、太、子、ト、力、貴、此、ニ、至、リ、テ、即、位、ス、時、ニ、年、七、  
 十一、〇、百、濟、王、其、人、國、ノ、博、志、至、仁、ヲ、云、云、又、始、王、身、  
 奇、異、服、西、素、等、ヲ、率、升、天、入、朝、セ、此、云、論、議、及、好、字、  
 文、力、獻、云、皇、子、苑、道、攝、郎、子、玉、仁、又、師、以、此、神、學、云、

高麗ノ使者來リテ表ヲ上ルニ及ビテ、推郎子其  
 文ヲ以テ、倭嬖ノリトシ、奏レテ使者ヲ責メ、表ヲ  
 壞ル。○推郎子ヲ立テ、皇太子トス。○天皇在位、  
 四十一年、ノテ崩ス、年百十一。  
 第十七代仁德天皇ハ、應神天皇ノ子、ノテ皇太  
 子ノ見ノリ、應神天皇崩スルニ及ビテ、皇太子位  
 ヲ天皇ニ讓ル。天皇聽カズ、位ヲ空レクスルコト  
 三年、皇太子、天皇ノ志奪テベカラザルヲ知リテ、  
 自殺ス。是ニ於テ、天皇遂ニ即位シ、都ヲ攝津ノ  
 波邊遷ス。コレヲ高津宮トイフ。一日、天皇入烟ノ

稀少ナルヲ見テ、民ノ貧レヤヲ知リ、租稅ヲ除ク  
 共ニ三集百姓、木ヲ富ク。○難波、城江ヲ鑿、池滿  
 若通、災堤防カ築ケ、民皆其ノ利ヲ得。○蝦夷反  
 奏、將軍田道ヲ遣ハ、兵勇ヲ用ヒテ征セシメ、○天皇  
 在位、泰和七年、ノテ崩ス、ノ年未詳。○天皇  
 第十八代履仲天皇ハ、仁德天皇ノ長子ナリ、磐余  
 若媛宮ニ治ス。倭古仲皇子反ス、菟齒別皇子、反正  
 皇子ヲ誅ス。西皇孫其ノ天皇外弟ナリ。○天皇詔  
 命テ、史ヲ諸國天置キ、言事ヲ記シ、四方奉憲天造  
 也。心平、姑ヲ裁職ヲ置ク。網リテ裁部ヲ定メ、在



生ノリ、後天皇山宮ニ幸シ、天皇后ト冥ニ醉テ寢、  
又王、天皇ヲ弑シ、大臣葛城圓ノ家ニ匿ル、時ニ  
年七歳ナリ、天皇在位三年、年五十六、  
第二十三代雄略天皇ハ、允恭天皇ノ子ナリ、天皇  
峻刻ニシテ、仇健人ニ過キタリ、安康天皇ノ弑セ  
テ、  
方ル、ニ方リテ、天皇諸兄ヲ疑ヒ、兵ヲ率キテ、ハ  
鈎、白彥皇子ニ迫リ、遂ニニシテ斬リ、圓ノ弟ヲ圍  
ミ、火ヲ縱テ、圓、及眉輪王ト坂合、黑彥皇子トヲ  
焚殺ス、又市邊、押磐皇子、及御馬皇子ヲ殺シ、遂ニ  
泊瀬朝倉宮ニ即位ス、○天皇嘗テ葛城山ニ獵ス、

野狛突キ至ル、舍人ニ命ジテ、刺シ殺サシム、  
ス、舍人怖シテコレヲ避ク、天皇怒リテ、舍人ヲ殺  
セシトス、皇后幡媛皇女、諫メテ曰ク、獸ノ故ヲ以  
テ、人ヲ殺サハ豈豺狼ニ異ナランヤト、天皇欣然  
トシテ曰ク、人ハ禽獸ヲ獲、朕ハ善言ヲ獲タリト、  
乃舍人ヲ釋ス、○天皇、皇后ニ勅シテ、親、桑ヲ採ラ  
シメテ、以テ蠶事ヲ勸ム、○吳人來聘シテ、工女漢  
織、兵織、衣縫、兄媛、弟媛ヲ貢ス、○豐受、大神ヲ丹波  
ヨリ伊勢、山田ニ遷シ祀ル、天皇在位二十三年、

第二十三代清寧天皇ハ、雄略天皇ノ子ナリ、磐余  
 竊栗宮ニ治ス、皇弟星川皇子反ス討チテコロシ  
 平フ、天皇嗣無キヲ憂フルコト久シ、市邊押磐皇  
 子ノ遺子、億計弘計、二王、播磨國ニ在リト聞キ、迎  
 ハシ億計、王ヲ立テ、皇太子トス、○天皇在位五  
 年ニレテ崩ズ、年四十一、葬、皇太后尊言マ勢ス、又小  
 弟二十四代、顯宗天皇ハ、即弘計、王ナリ、清寧天皇  
 崩シテ後、皇太子位ヲ天皇ニ讓ル、天皇固辭ス、是  
 於テ姑飯豐青皇女、政ヲ角刺宮ニ聽ク、九月ニ  
 崩シ、皇女崩ズ、皇太子及大臣平群、眞鳥等、固ク請

テ、因リテ近、飛鳥、八鈿宮  
 ニ即位ス、皇太子ハ仍故  
 ノ如シ、○天皇、父ノ害セ  
 ラレシ時、尚幼ニシテ、其  
 ノ墓ノアル所ヲ知ラズ、  
 因リテ父老ヲ聚メ、親臨  
 シテ、歷問シ、遂ニコレヲ  
 近江ノ來田綿、蚊屋野ニ  
 得テ、改葬ス、○天皇、父  
 久民間ニ在リテ、百姓ノ

億計弘計二王起舞ノ圖



疾苦ヲ知ル、故ニ賦歛ヲ薄クシ、貧窮ヲ恤ム、又比年豐熟シテ、穀一斛ノ直、銀錢一文ナルニ至ル、在位、三年ニシテ崩ス、年三十八、

第二十五代、仁賢天皇、即、億計王、石上、廣高宮、即位ス、天皇、仁惠謙恕、吏ハ其ノ職ニ稱ヒ、民ハ其ノ業ヲ安クシ、戸口蕃殖ス、初、顯宗天皇位ニ即キテ、雄略天皇ノ陵ヲ發キ、父ノ仇ヲ報ゼントス、天皇、コレヲ諫メテ止ム、在位、十一年ニシテ崩ス、年五十五、

第二十六代、武烈天皇ハ、仁賢天皇ノ子ナリ、仁賢天皇崩スルニ及ビ、大臣平群真鳥、潛ニ篡奪ヲ謀ル、其ハ子、鮪又天皇ニ禮ヲ以テ、是ニ於テ、大伴金村ト謀ル、大父子ヲ誅シ、泊瀨、列城、宮ニ即位ス、○天皇、刑律ヲ好シ、法令嚴明ナリ、諸ノ酷刑、親臨セザル、以テ無シ、民皆震怖ス、在位、八年ニシテ崩ス、年、事、未詳、ナリ、非、時、無、事、也、又、ハ、傳、ハ、ス、コト、ナリ、ト、云、フ、

第二十七代、繼體天皇ハ、應神天皇ノ五世ノ孫ナリ、其父ス彦主人、王トイフ、○天皇、幼ニシテ孤ナリ、母ニ從ヒテ、越前ノ高向ニ居リ、長ズルニ及ビテ、大度下リ、七ヲ愛シ、賢ヲ禮ス、武烈天皇崩シテ嗣



無<sub>レ</sub>群臣議<sub>レ</sub>テ天皇ヲ迎<sub>ス</sub>天皇遂<sub>ニ</sub>河内<sub>ノ</sub>樟葉宮<sub>ニ</sub>即位ス、後又都ヲ磐余<sub>ニ</sub>遷ス<sub>コ</sub>レテ、王穗宮トイ<sub>ス</sub>、近江、毛野ヲ<sub>レ</sub>テ、新羅<sub>ノ</sub>代ヲ<sub>レ</sub>テ、任那<sub>ノ</sub>故地ヲ復<sub>セ</sub>レ<sub>ル</sub>、筑紫國、造磐井、及<sub>レ</sub>テ謀<sub>テ</sub>新羅<sub>ニ</sub>通<sub>ス</sub>、物部、麤鹿火ヲ<sub>レ</sub>テ、討<sub>チ</sub>テ<sub>コ</sub>レテ平<sub>ダ</sub>レ<sub>ル</sub>、○天皇、在位、二十五年<sub>ニ</sub>レテ崩<sub>ズ</sub>、年八十二、第三十八代、安閑天皇ハ、繼體天皇ノ子ナリ、都ヲ勾金橋宮<sub>ニ</sub>遷<sub>ス</sub>、在位、二年<sub>ニ</sub>レテ崩<sub>ズ</sub>、年七十、第二十九代、宣化天皇ハ、安閑天皇ノ同母弟ナリ、安閑天皇崩<sub>レ</sub>テ嗣無<sub>ク</sub>、群臣ノ請<sub>ニ</sub>因<sub>リ</sub>テ即位

レ、都ヲ檜隈<sub>ニ</sub>遷<sub>ス</sub>、<sub>○</sub>詔<sub>シ</sub>テ筑前<sub>ノ</sub>中倉<sub>ヲ</sub>修<sub>シ</sub>、以<sub>テ</sub>凶荒<sub>ニ</sub>備<sub>ヘ</sub>レ<sub>ル</sub>、在位、三年<sub>ニ</sub>レテ崩<sub>ズ</sub>、年七十三、

第三十代、欽明天皇ハ、繼體天皇ノ子ナリ、宣化天皇崩<sub>ズ</sub>、弟嗣無<sub>ク</sub>、群臣議<sub>レ</sub>テ、天皇ヲ迎<sub>ク</sub>、因<sub>リ</sub>テ即位ス、都ヲ磯城島<sub>ニ</sub>遷<sub>ス</sub>、<sub>○</sub>金刺宮トイ<sub>ス</sub>、百濟<sub>ヨリ</sub>、佛像及經論ヲ獻<sub>ス</sub>、天皇<sub>コ</sub>レテ、蘇我稻目<sub>ニ</sub>賜<sub>テ</sub>、曾<sub>レ</sub>諸國大<sub>ニ</sub>疫<sub>アリ</sub>、物部尾輿等、謂<sub>ヘ</sub>テ、久<sub>シ</sub>善神<sub>ヲ</sub>禮<sub>ス</sub>ル<sub>ヲ</sub>致<sub>ス</sub>所<sub>ナ</sub>リト、因<sub>リ</sub>テ、蘇我有<sub>レ</sub>佛像、難波、堀江<sub>ニ</sub>投<sub>ス</sub>、○新羅、任那<sub>ヲ</sub>滅<sub>シ</sub>、我

官府ヲ毀ル、紀男麻呂河邊境往ケレテ、コレヲ討タレハ、獲金、輕進レテ利ヲ失セ、捨ニセラル、調伊企儼ゴレニ死ス。○大伴狹手彦高麗ヲ討テ、コレヲ破リ、其ノ都城ニ入り、珍寶ヲ得テ還ル。○天皇疾アリ、後事ヲ以テ皇太子ヲ屬期テ曰ク、新羅



又征レテ任那ヲ復セヨト、遂ニ崩ス。在位三十二年。  
事并来詳ナラス

第三十一代敏達天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、都ヲ譯語田ニ遷ス、コレヲ幸玉宮トイフ。○天皇葦北國造ノ子日羅久シク百濟ニ在リテ夷情ヲ知ルヲ以テ、コレヲ召レ還シ、新羅ヲ伐ツノ策ヲ問フ。日羅曰ク、夷ヲ服スルノ道、國本ヲ培養スルニ在リト、具ニ其ノ策ヲ陳ス、天皇コレヲ嘉ス。○蘇我馬子佛ヲ信ジ、寺塔ヲ建テ、物部守屋中臣勝海部ヲ殺シ、勅奏ス、馬子病ニ爲リ、佛ニ請フニ、佛ヲ請フ。

フ、天皇乃勅レテ曰ク、汝獨コレヲ爲ミ、他人ヲ惑  
ハスコトナカレト、○天皇在位十四年ニシテ崩  
ス、年四十八、  
第三十二代、用明天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、磐余  
ニ都ス、コレヲ池邊雙槻宮トイフ、○敏達天皇ハ  
崩スルニ及ヒテ、穴穗部皇子陰ニ覬覦ヲ懷キ又  
殯宮ニ入りテ、其ノ皇后ヲ烝センコトヲ謀ル、三  
輪逆コレヲ拒ム皇子怒リテ、物部守屋ヲシテ、逆  
ヲ殺サシム、○天皇病アリ、群臣ヲシテ佛ニ禱ラ  
ンコトヲ議セシム、物部守屋、中臣勝海コレヲ諫

ム、蘇我馬子詔旨ヲ贊成ス、穴穗部皇子僧ヲ引キ  
テ、宮ニ入ル守屋怒リテ、コレヲ呪ス、是ヨリ馬子  
下、守屋勝海ト、怨隙激甚シ、馬子迹見赤檮ヲシテ、  
勝海ヲ殺サンム、天皇在位二年ニシテ崩ス、  
第三十三代、崇峻天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、用明  
天皇崩シテ嗣無シ、物部守屋諸皇子ヲ去リテ、穴  
穗部皇子ヲ立テシトス、蘇我馬子其ノ謀ヲ聞キ  
大敏達天皇ヲ皇后炊屋姫尊即推古天皇ナリヲ奉  
セ、穴穗部皇子及宅部皇子ヲ殺サシム

又廐戶皇子ヲ謀以、守屋ヲ攻、其ノ族ヲ滅、  
是ニ於テ、炊屋姫尊、群臣ト策ヲ定メ、天皇ヲ  
疾、即位セシム、倉梯宮ニ治ス。○蘇我馬子、東漢日  
ニ甚ク、天皇コレヲ疾ム、馬子懼レテ、東漢駒ヲシ  
テ、天皇ヲ弑セシム、駒コレヨリ、馬子ノ寵ヲ時  
其ノ女ヲ姦ス、馬子怒リ、駒ヲ殺シテ曰ク、吾、君ヲ  
弑シ、賊ヲ誅ス、○天皇在位五年、年七十三、  
第三十四代、推古天皇ハ、用明天皇ノ同母妹ナリ、  
敏達天皇ノ五年ニ、皇后トナリ、是ニ至リテ、豐浦  
宮ニ即位ス、後、小墾田宮ニ遷ル。○廐戶皇子ヲ立

テ、太子トシ、政ヲ攝セシム、太子及蘇我馬子ニ  
詔シテ、佛法ヲ興隆セシム、是ニ於テ、群臣競レテ、  
佛寺ヲ造ル。○百濟ヨリ、曆、天文、地理、遁甲、方術等  
ノ書ヲ獻ス、太子憲法十七條ヲ撰テ、詔レテ、冠位  
十二階ヲ定メ、又天皇記、國記、及諸臣、庶人等ノ本  
記ヲ錄セシム、小野妹子ノ、隋ニ遣ハス支那ト通  
交ルルト此ニ始マル、池溝ニ倭山背河内ニ作り、  
國毎、屯倉ヲ置ク、在位、三十六年ニシテ崩ス、年  
七十五、遺詔シテ、厚ク葬ルコト勿カラシム、  
第三十五代、舒明天皇ハ、敏達天皇ノ孫ニシテ、押

坂彥人、大兄皇子ノ子ナリ、都ヲ飛鳥岡ニ遷ス、コ  
 以テ岡本宮トイフ、○蝦  
 夷反ス、上毛野形名ヲシ  
 美、討チテコレヲ平ケン  
 夫、其ノ妻夫ヲ助ケテ功  
 アリ、○始メテ、斗升斤量  
 定メ、○天皇在位、十三  
 年ニシテ崩ス、享年未詳  
 第三十六代、皇極天皇ハ、



形名、  
 妻酒、  
 夫勸  
 八二圖

敏達天皇ノ曾孫ニシテ、茅渟王ノ女ナリ、舒明天  
 皇ノ二年、皇后トナリ、是ニ至リテ、即位ス、飛鳥  
 板蓋宮ニ治ス、○蘇我蝦夷ノ子、入鹿政ヲ擅ニシ、  
 父子相與テ、不軌ヲ謀ル、中大兄皇子、天智天皇中臣鎌  
 足等ト謀リテ、父子ヲ誅ス、蝦夷誅セラル、臨  
 終ニテ、天皇記、國記、及、珍寶ヲ披テ、船惠尺、國記ヲ  
 火中ヨリ取リテ、中大兄皇子奉ル、○天皇位ヲ輕  
 皇子孝德ニ讓ル、在位三年、  
 第三十七代、孝德天皇ハ、皇極天皇ノ同母弟ナリ、  
 中大兄皇子ヲ立テ、皇太子トス、都ヲ難波長柄豐

崎ニ遷ス此ノ時始々天年號ヲ建テ、大化トイ  
神武天皇即位紀元ノ年ヲ距セコト、一、千、三、百、  
五年ニシテ、○鐘匱ヲ朝ニ設ケテ、宛枉ヲ許ヘシメ、  
畿内ヲ定メ、關驛ヲ建テ、國造ヲ罷シ、國司郡司ヲ  
置キ、國界ヲ分テ、田制ヲ定メ、租庸調ノ法ヲ制シ、  
又冠十三階ヲ定メ、更ニ十九階ヲ制シ、八省百官  
ヲ置ク、國家ノ制度大ニ備ヘル、在位十年ニシテ  
崩ス年五十九、○後、神武天皇ノ子、八、  
第三十八代齊明天皇ハ、皇極天皇重祚ノ號ナリ、  
飛鳥振蓋宮ニ即位シテ、明年、飛鳥岡本宮ニ遷ル、

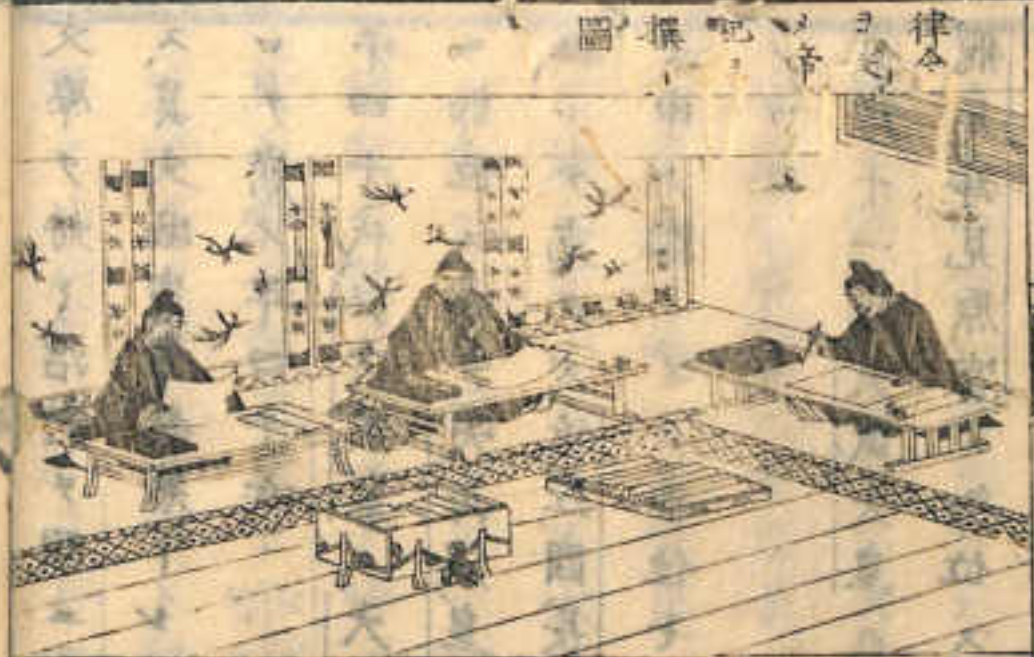
コレヲ後、飛鳥岡本宮ト云ス、○阿倍比羅夫舟師  
ヲ率ホテ、蝦夷ヲ征シ、遂ニ肅慎ヲ伐ク、○有間皇  
子、反テ、謀ル事發シテ、誅ニ伏ス、○新羅兵ヲ唐國  
ニ借リテ、百濟ヲ代テ、天皇、コレヲ救ハシコトヲ  
欲シ、天親舟師ヲ帥キ、西州ニ幸ク、遂ニ筑紫朝倉  
宮ニ崩ス、在位七年、前後合シテ、十年ナリ、年六十  
八、○天智天皇ノ子、  
第三十九代、天智天皇ハ、舒明天皇ノ子ナリ、都ヲ  
近江國ニ遷ス、コレヲ、大津宮トイフ、○天皇、至孝  
ニシテ、先帝ヲ殞スルコト、六年、明年ニ至リ、始

即位の禮ヲ行フ、○敕以天冠位二十六階ヲ  
制ス、○中臣鎌足ヲ大臣ニ任シ、大織冠ヲ叙シ、藤  
原氏ヲ賜フ、大友皇子弘文天皇ヲ太政大臣トス、太政  
大臣、此ニ始マル、侍臣ニ詔レテ律令ヲ撰ヒ、戶籍  
ノ法ヲ定メレバ、又大堤ヲ筑紫ニ築キテ、水ヲ貯  
ス、名ケテ水城ト云フ、始メテ御製ノ漏刻ヲ置キ、  
鐘鼓ヲ擊チテ、以テ時ヲ報セレバ、○天皇病アリ、  
皇太弟、大海人皇子天武天皇ヲ召シテ、屬スルニ後事  
ヲ以テス、皇太弟、疾ト稱シ、固辭シテ僧トナリ、吉  
野ニ入ル、是ニ於テ、大友皇子ヲ皇太子トス、天皇

文學ヲ好ミ、沿體ヲ明ニシ、學校ヲ興レ、典禮ヲ制  
ス、其文物憲章、粲然トシテ觀ルバ、以テ在位、十年ニ  
シテ崩ス、年四十六、

第四十代、弘文天皇ハ、天智天皇ノ子ナリ、大津宮  
ニ即位ス、尋テ、大海人皇子、兵ヲ舉ク、天皇、コレヲ  
征レテ克タズ、近江國長等ノ山前ニ崩ス、コレヲ  
壬申ノ亂トイフ、在位七月、年二十五、明治三年、始  
メテ上ル、

第四十一代、天武天皇ハ、天智天皇ノ同母弟ナリ、  
飛鳥淨見原宮ニ即位ス、詔レテ律令ヲ定メ、帝紀



及上古ノ事ヲ撰録セシメ  
 メ、又親王ヨリ庶人ニ至  
 ルマナク、服色ヲ分テ、天  
 下諸氏ノ姓ヲ定メテ、八  
 種トシ、爵位ノ制ヲ改メ  
 テ、諸王ニ十二階、諸臣ニ  
 四十八階トス、○諸國ノ  
 境域ヲ定ム、○天皇在位  
 十五年ニシテ崩ズ、享年  
 未詳  
 ナラ  
 ス、

第四十二代、持統天皇ハ、天智天皇ノ女ニシテ、天  
 武天皇ノ皇后ナリ、天武天皇崩スルニ及ビテ、朝  
 ニ臨ミ、政ヲ聽ク、後三年、皇太子草壁薨ズ、因リテ  
 即位シ、藤原宮ニ治ス、○大津皇子反テ謀ル事發  
 レテ死テ賜フ、○詔レテ、服色ヲ定メテ、七種トシ、  
 朝堂座上ノ禮ヲ制ス、始メテ、元嘉曆ト、儀鳳曆ト  
 ニ行ス、又陣法博士ヲ、諸國ニ遣ハレテ、武ヲ講セ  
 レル、○天皇位ヲ珂瑠皇子文武  
 天皇ニ讓ル、在位十年、  
 天寶二年十二月崩ス、年五十八、  
 第四十三代、文武天皇ハ、岡宮天皇天武  
 帝ノ太  
 子草壁ノ皇子



子ナリ藤原宮ニ即位ス持統天皇ヲ尊ヒテ  
 天皇ト稱ス太上天皇ノ號此ニ始マル  
 官名位號服色ヲ改メ位記ヲ用升テ位冠ヲ賜  
 ヲトノ律令ヲ撰定シ新律度量ヲ領メ又田  
 租ノ法ヲ定メ在位十一年ニ崩ス年二十五  
 第四十四代元明天皇ハ天智天皇ノ女ニシテ文  
 武天皇ノ母ナリ都ヲ平城ニ遷ス以下光仁天皇  
ニ至ルマテ此  
都スル  
ト七代○陸奥越後ノ蝦夷反ス伐チテコレヲ  
 平タ○始メテ都亭驛ヲ置キ又批文師ヲ諸國ニ  
 遣ハレテ錦綾ヲ織ルコトヲ教ヘハス○太安麻

呂古事記ヲ上ル又諸國ニ詔シテ風土記ヲ奉  
 ラシメ郡郷ノ名務メテ佳字ヲ用非レハ○使  
 七道ニ遣ハシテ囚徒ヲ録セシメ○陸奥出羽ノ  
 蝦夷南島ノ奄美夜久度感信覺球美等ノ人來朝  
 以テ方物ヲ獻ス○天皇位ヲ承高內親王元正  
天皇ニ  
 禪心在位七年養老五年十二月崩ス年六十六  
 第四十五代元正天皇ハ文武天皇ノ姪ナリ○諸  
 國ニ詔シテ調庸ノ斤兩長短ヲ定メ諸帳簿ノ式  
 頒メ又藤原不比等等ニ教レテ律令ヲ修メレ  
 國內ノ百姓ヲシテ社ヲ右ニセシメ○始メテ

諸國按察使ヲ置キ、又、渡島、津輕、津、河等國、鞍馬、  
國、遣ハシテ、其人、風俗ヲ觀ヒシメ、其人、親王、

日本紀三十卷、系圖一卷ヲ上ラシメ、○蝦夷反ス、丹

治比、縣守等ヲシテ、討チテコロシテ平ラシメ、○天

皇位ヲ首皇子聖武天皇禪ハ、在位九年、天平二十年

四月崩ス、年六十九、天皇御宇、聖武天皇

第四十六代聖武天皇ハ、文武天皇ノ子ナリ、蝦

夷反ス、藤原、宇合等ヲシテ、討チテコロシテ平ラシ

メ、○始メテ畿内、總管、諸道、鎮撫使ヲ置キ、尋テ節

度使ヲ置ク、○新羅來朝ノ期、三年、聖武天皇

コトヲ許シ、○藤原、廣嗣反ス、大野、東人、聖武天皇

ヲ天ノ子トシテ平ラシメ、○天皇、佛法ヲ尊崇シ、篤ク

僧侶ヲ敬ス、金銅、盧舍那佛、大像ヲ造セ、出家シ

テ、自勝、滿、聖武天皇稱ス、在位二十五年、聖武天皇位ヲ阿倍

皇女孝謙天皇禪、天平勝寶八歲、五月崩ス、年五十

六、皇女孝謙天皇繼體、聖武天皇天皇、在位十一年、聖武天皇

第四十七代、孝謙天皇、聖武天皇聖武天皇ノ女ナリ、始メ

テ、紫微、內相ヲ置キ、藤原、仲麻呂、聖武天皇以テ、コレヲ任

ス、内外、諸、兵、車、聖武天皇掌メ、文、武、聖武天皇橘、奈良、麻呂、聖武天皇其、大、權、聖武天皇

事、聖武天皇天、聖武天皇惡、聖武天皇コレヲ除ク、聖武天皇其、聖武天皇欲、聖武天皇遂、聖武天皇

廢立ヲ謀ル、事泄レテ獄ニ下リ、黨與罪ヲ得テ者

衆、當時、藤原豐成右大臣タル寛厚ニシテ、時望

ヲ得、仲麻呂ヨレテ忌入、遂ニ豐成ハ誣ヒテ、其ノ

黨ヲリトス、因リテ、太宰、員外帥ニ貶ス、是ヨリ、仲

麻呂、益横肆ナリ、○天皇、在位、十年ニシテ、位ヲ大

汝皇子薄仁、天皇、薄仁、讓ル、平御賣ハ政五日崩ス、平五十

第四十八代、淳仁天皇ハ、崇道盡敬皇帝天武帝、天武帝、天武帝

王ノ子ナリ、○仲麻呂等ニ詔シテ、官制ヲ改メ、レ

又、仲麻呂ニ名ヲ押勝ト賜ル、姓ニ惠美ノ三字

ヲ加テ、○國司ノ交替、六年ヲ以テ限トシ、三年毎

ニ巡察使ヲ遣ハシテ、治績ヲ檢校セシム、○初上

皇、孝謙、天皇、押勝ヲ寵ス、既ニシテ、僧道鏡ヲ近クク、天

皇、孝謙、天皇、以テ言ヲナス、上皇擇ハス、五位以上ヲ朝ニ

召シ、親國家ノ大事ヲ決ス、押勝、道鏡ノ爲ニ、其寵

ヲ奪ハレシコトヲ懼ル、奏シテ、四畿内、伊勢、美濃

越前、近江、丹波、播磨ノ國ノ、兵事都督ヲ請ヒ、遂ニ

近江ニ據リテ反シ、鹽燒王ヲ立テ、帝ト稱ス、藤

原、藏下麻呂ヲシテ、討テテコレヲ誅セシム、上皇

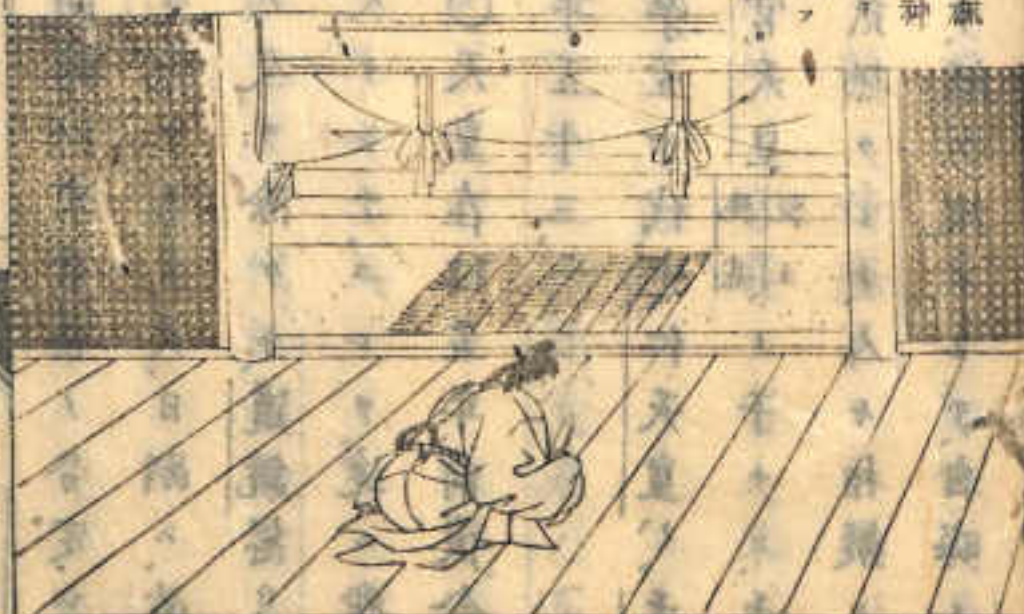
詔シテ、道鏡ヲ、大臣、禪師トシ、封戶、職分申、皆大臣

ヲ準ス、天皇ヲ廢シテ、淡路公トシ、其ノ國ニ遷ス

第一 淡路廢帝ト稱ス○天皇、在位六年、天平神護  
 元年十月淡路ニ崩ス、年三十三、後明治三年、謚ヲ  
 上ル、

第四十九代、稱徳天皇ハ、孝謙天皇重祚ノ號ナリ、  
 天皇既ニ佛ニ歸シ、是ニ至リテ、復萬機ニ臨スリ、  
 ○和氣王反ヲ謀リ事發レテ誅ニ伏ス、詔シテ道  
 鏡ヲ以テ太政大臣禪師トシ、文武百官ヲシテ、拜  
 賀セバ、ム、尋テ法王ノ位ヲ授ケ、輿服、飲食、皆供御  
 ニ擬セシメ、大小ノ政其決ヲ取ラザルハ無シ、會  
 太宰ノ主神習宜、阿曾麻呂宇佐八幡大神ノ託宣

清麻呂神教請圖



ト婦リ、道鏡ヲレテ、位ニ  
 即カレシメ、天下泰平ナ  
 ラレト奏シ、是ニ於テ、天  
 皇、和氣、清麻呂ヲ、宇佐ニ  
 遣ハレテ、神教ヲ請ハレ  
 ム發スルニ臨ミテ、道鏡  
 又示スニ、恩威ヲ以テレ  
 其ノ非望ヲ遂ガシ、コト  
 ヲ欲ス、清麻呂歸リテ神  
 語ヲ奏レテ曰ク、我が國

開闢以來君臣ノ分定レテ、未、臣ヲ以テ、君ノ如クシ  
コトアラズ、天、日嗣ハ、必皇緒ヲ立テ、早ク無道  
ノ人ヲ除ケト、道鏡怒リ、清麻呂ヲ大隅ニ流シ、  
人ヲレテ、コレヲ途ニ殺サレタレド、天、能ハズ、  
○天皇在位五年、前後合セテ、十五年ニシテ崩ス、  
年五十三、

第五十代、光仁天皇ハ、天智天皇ノ孫ニシテ、春日、  
宮、天皇地基親王ノ子ナリ、天皇、天平勝寶以來、國ニ儲  
武無クシテ、人々相疑ヒ、横禍ニ罹ル者多キヲ慮  
テ、酒ヲ縱ニシテ、自晦ス、稱徳天皇崩スルニ及ヒ

テ、遺詔ヲ奉リ、即位シ、道鏡ヲ遣下野、藥師寺別當  
ニ貶シ、清麻呂ヲ召還シテ、本位ニ復ス、○詔シテ、  
内外ノ官員ヲ省ク、又、三關邊要ノ外ハ、悉諸國ノ  
冗兵ヲ除キ、コレヲシテ、農耕ヲ就カシメ、三關ト  
ハ、伊勢ノ鈴鹿、美濃ノ不破、越前ノ愛發ナリ、○天  
皇在位十二年ニシテ、位ヲ皇太子ニ譲リ、尋テ崩  
ズ、年七十三、

第五十一代、桓武天皇ハ、光仁天皇ノ子ナリ、都ヲ  
山城ニ遷シテ、コレヲ平安城トイフ、子、宇野ヨリ以  
後、歷代ノ皇居タリ、○淡海、三船ヲシテ、天神武天皇

より以來、列朝ノ謚號ヲ定メシム、○詔レテ、三關  
ヲ廢シ公私ノ往來ニ便ス、是ノ時、蝦夷數反ス、大  
伴弟麻呂坂上、田村麻呂等ヲ以テ討チテ、  
平ケシム、○菅野真道等續日本紀ヲ上ル、天皇在  
位二十年ニシテ崩ズ、年七十

第五十二代、平城天皇ハ、桓武天皇ノ子ナリ、○皇  
弟伊豫親王、反ヲ謀ルト告ル者アリ、因リテ死  
賜ヒ、其ノ黨ヲ流ニ處ス、○天皇在位四年ニシテ  
位ヲ皇太弟ニ讓ル、天長元年七月崩ズ、年五十二  
第五十三代、嵯峨天皇ハ、平城天皇ノ同母弟ナリ

○尚侍藥子、平城上皇ニ復辟ヲ勸メ、旨ヲ矯メテ、  
都ヲ平城ニ遷サントシ、人心騷然タリ、天皇詔シ  
テ、藥子ノ罪ヲ暴白シ、其ノ兄藤原仲成ヲ收メ、上  
皇怒リテ、兵ヲ率テ東國ニ入ラセトス、天皇乃チ仲  
成ヲ誅シ、兵ヲ遣ハシテ、上皇ヲ路ニ邀キラシム、  
上皇進ムコトヲ得ズ、因リテ宮ニ還リ、剃髮シ、藥  
子自盡シテ、天事平ガリ、○天皇博學ニシテ、文ヲ能  
クシ、書ヲ巧ニス、在位十四年ニシテ位ヲ皇太弟  
ニ讓ル、承和九年七月崩ズ、年五十五、  
第五十四代、淳和天皇ハ、嵯峨天皇ノ弟ナリ、○清

原、夏野等ニ敕シテ、今、義解ヲ撰ハシム。○夏野奏  
シテ、親王ヲ諸國、守トシ、庶務ヲ習ヌシタシコト  
ヲ請フ、是ニ於テ、上總、常陸、土野ヲ以テ、親王ノ任  
國トス。○天皇、在位十年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓  
ル。承和七年五月崩ス、年五十五。○  
第五十五代、仁明天皇ハ、嵯峨天皇ノ子ナリ。○伴  
健岑、橘逸勢等、陰ニ太子恒貞ヲ奉ヒテ、天皇ヲ廢  
シ、太子ヲ謀リ、事發ル、因ッテ太子ヲ廢シ、健岑  
逸勢ヲ、流ニ處ス。○日本後紀成ル。○天皇、在位十  
七年ニシテ崩ス、年四十一。○

第五十六代、文德天皇ハ、仁明天皇ノ子ナリ。天皇  
資性明察、心ヲ政事ニ留メテ、能ク人ノ姦ヲ知ル  
但多病ナルヲ以テ、事ヲ親ルコトヲタハス、在位  
僅ニ八年ニシテ崩ス、時人コレヲ惜ム、年三十二。  
第五十七代、清和天皇ハ、文德天皇ノ子ナリ。天皇  
九歲ニシテ即位ス、政ヲ藤原良房ニ攝セシム、其  
ノ外祖タルヲ以テナリ、既ニシテ、良房薨ス、天皇  
政ヲ親シ、日萬機ヲ紫宸殿ニ親シ、是ヲ以テ、内外  
肅然トシ、大國家寧靜ナリ。○貞觀格式、及續日本  
後紀成ル。○天皇、在位十八年ニシテ、位ヲ皇太子

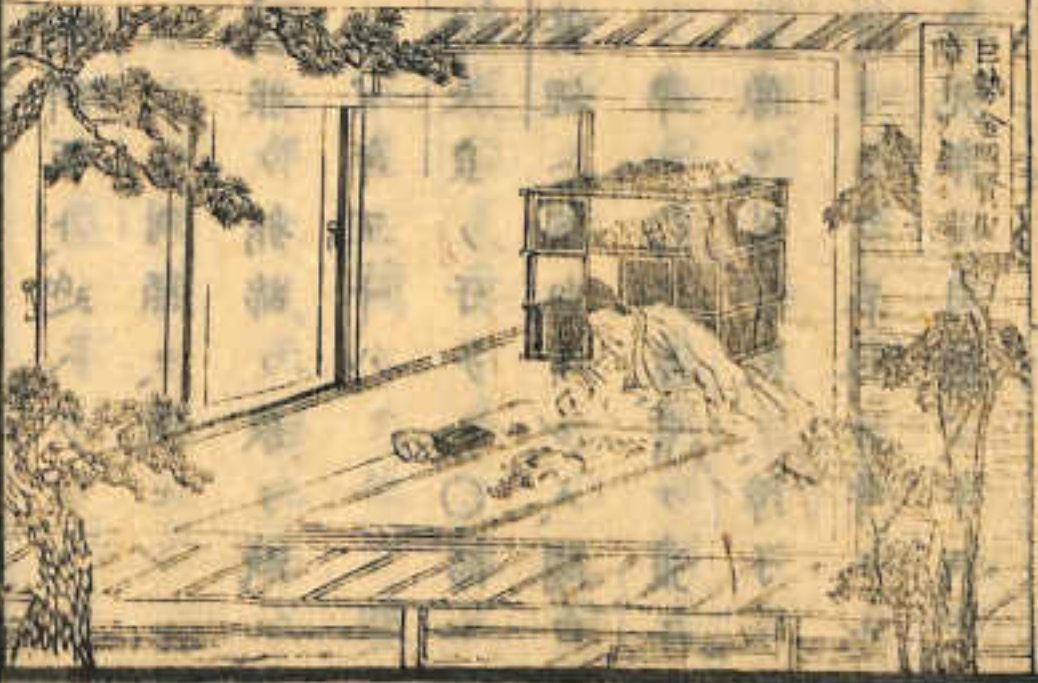
二讓ル、元慶四年十二月崩ス、年三十一、  
第五十八代、陽成天皇ハ、清和天皇ノ子ナリ、天皇  
十歳ニシテ即位ス、藤原基經、政ヲ攝ス、良房ノ例  
ニ沿カヘルナリ、○出羽ノ夷俘反ス、藤原保則、小  
野春風等ヲシテ討チテコレヲ平ケルム、○文德  
天皇實錄成ル、○天皇、遊嬉度無ク、屢不事ヲ殺ス、  
是ニ於テ、基經公卿ト謀リ、天皇ニ請ヒテ、位ヲ讓  
ルルニ是ノ時、年十七、在位八年ナリ、天曆三年九  
月崩ス、年八十二、  
第五十九代、光孝天皇ハ、仁明天皇ノ子ナリ、○天

皇謙恭寬仁ナリ、故ニ、基經群臣ト、迎ヘテコレヲ  
立ツ、○公卿奏シテ、五位以上ノ封祿ヲ、減センコ  
トヲ請フ、許サズ、數シテ、仰服ノ絹綿ノ數ヲ減ス  
○天皇、在位三年ニシテ崩ス、年五十八、  
第六十代、宇多天皇ハ、光孝天皇ノ子ナリ、○詔レ  
テ、萬機巨細ト無ク、一切基經ニ關白セシム、關白  
此ニ始マル、尋テ、又ニ宮ニ準ス、○天皇、嘗テ畫工  
ヲシテ、殷周以來ノ名臣ノ像ヲ、紫宸殿ノ障子ニ  
圖セシム、コレヲ賢聖障子トイフ、在位十年ニシ  
テ、位ヲ皇太子ニ讓ル、承平元年七月崩ス、年六十



五、  
第六十一代醍醐天皇ハ

宇多天皇ハ子ナリ、○藤原時平、菅原道真ト共ニ政ヲ執ル、道真、庶務ヲ綜理シ、裁決流ルルガ如ク、天下望ヲ屬ス、時平等コト又嫉ミテ、誣フルニ異圖アルヲ以テス、天皇、其ノ讒ヲ信シ、天道真ヲ太



巨勢金四郎

宰權帥ニ左遷ス、天下コレヲ究トス、○天皇心ヲ政事ニ留メ、温顔ヲ以テ、群臣ニ對テ、其ノ言ヲ盡サシメ、嘗テ寒夜ニ方テ、御衣ヲ脱シテ曰ク、凍餒ノ民以テ想フベクナリト、故ニ、後世稱シテ、延喜ノ政ノイカク、延喜ハ當時ノ年號ナリ、此ノ世ニ延喜式及三代實錄成ル、○天皇在位三十三年、位ヲ皇太子ニ讓リ、尋テ崩ス、年四十六、○平第六十二代、朱雀天皇ハ、醍醐天皇ノ子ナリ、○平將門、伯父、常陸、大楢國香ヲ、常陸ニ殺ス、武藏權守興世、王、凶險ニシテ、亂ヲ好ム、將門延キテ謀主トシ、

下總三反、坂東諸國ヲ陷、都ヲ猿島ニ建、  
百官ヲ備、自新皇ト稱ス。是レ時ニ當リ、藤原  
純友既ニ、難ヲ伊豫ニ起、東西相應、天下騷然  
ナリ、因リテ、藤原忠文ヲ征東大將軍トシ、未至ラ  
ズニ、平貞盛、藤原秀郷等、將門ヲ討テ、尋テ捕達  
保、純友ヲ伊豫ニ誅シ、首ヲ京師ニ傳ヘ、賊悉平ク、  
コレヲ承平天慶ノ亂トイフ。承平天慶モ、亦當時  
ノ年號ナリ。○天皇在位十六年ニ、崩テ、位ヲ皇太  
弟ニ讓、天曆六年八月崩ス。年三十一。○  
第廿三代、村上天皇ハ、朱雀天皇ノ同母弟ナリ、

○天德四年九月、禁中火久、累世ノ寶器文籍多ク  
焚ケタリ、獨神鏡ハ、灰燼ノ中ニ在リテ、形質損  
ゼズ。○天皇嘗テ一老吏ニ問ヒテ曰ク、朕ガ治、延  
喜ノ朝ト、得失何如。對ヘテ曰ク、老吏何ヲカ知ラ  
ズ、唯主殿寮進ル所ノ松明、舊ニ比スレバ多クレ  
テ、率分堂ニ草生ヌルヲ異ナリトスルナリ。○天  
皇大ニ愧ヂテ、益政事ヲ勤ム。時ニ年號ヲ天曆ト  
イフ。故ニ後世治ヲ説ク者、必延喜天曆ヲ稱ス。○  
天皇在位二十一年ニ、崩ス。年四十二。  
第六十四代、冷泉天皇ハ、村上天皇ノ子ナリ。○橘

繁延等爲平親王ヲ奉シテ亂ヲ作サシコトヲ謀ル事發レテ流ニ處ス○天皇備貳タリキヨリ心疾ヲ患テ位ニ即クニ及ビテ増刺レ是ヲ以テ政外戚藤原氏ニ歸ス朝綱ヲ振ハサルコト實ニ此ニ始マル○天皇在位二年ニシテ位ヲ皇太子ニ讓ル寛弘八年十月崩ス年六十二  
第六十五代圓融天皇ハ冷泉天皇ノ同母弟ナリ在位十五年ニシテ位ヲ皇太子ニ讓ル正曆二年二月崩ス年三十三  
第六十六代華山天皇ハ冷泉天皇ノ子ナリ○天

皇即位々初心ヲ政事ニ委レ紀綱肅然タリ女御氏子卒ルニ及ビテ悲哀シテ已マズ遂ニ藤原道兼ニ誘ハレテ潛ニ宮ヲ出テ華山ノ元慶寺ニ入リ落髮シテ僧トナル○天皇在位僅ニ二年寛弘五年二月崩ス年四十一  
第六十七代一條天皇ハ圓融天皇ノ子ナリ○關白藤原道長權ヲ專スス天皇心コレヲ疾トシ雖遠ニ制スルコト能ハズ○天皇在位二十五年ニシテ位ヲ皇太子ニ讓ル寛弘八年六月崩ス年三十三

第六十八代三條天皇ハ、冷泉天皇ノ子ナリ。○藤原道長益々專恣ナリ。○天皇在位五年、崩ス。位ヲ皇太子ニ讓ル。寛仁元年五月崩ス。年四十二。第六十九代後一條天皇ハ、一條天皇ノ子ナリ。○三條天皇敕ニテ子敦明親王ヲ立テ、後一條天皇ハ儲貳トス。其人統ヲ存セシコトヲ欲スレバナリ。既ニシテ、東宮位ヲ辭ス。道長奏シテ、小一條院ニ號シ、上皇ニ准シ、皇弟敦良親王後朱雀天皇ヲ立テ、皇太子トス。道長朝ニ立クコト、四十餘年、一家ニ

所ナリ。○天皇在位二十二年ニシテ崩ス。年二十九。

清原光朝弟成  
明ノ源賴義ニ  
本ノ稱ス。圖

第七十代後朱雀天皇ハ、後一條天皇ノ同母弟ナリ。○皇居久ク神鏡火中ニ在リテ、毀損セズ。○天皇在位九年、位ヲ皇太子ニ讓ル。尋テ崩ス。年三十

第七十一代後冷泉天皇



後朱雀天皇ノ子ナリ。○陸奥ノ俘囚安倍頼時  
 亂ヲ作ス、源頼義ニ命ジテ、コレヲ討タシム、其ノ  
 子貞任又叛キ、執益張ル、頼義出羽ノ豪族清原武  
 則ヲ招致シ、共ニ入リ討テ、コレヲ平タ、コレヲ  
 前九年ノ役トイフ。○天皇在位二十三年ニシテ  
 崩ス、年四十四、神代卷六  
神代卷六 順天二十六年  
神代卷六 順天二十六年  
神代卷六 順天二十六年  
 日本略史上卷終 二十一



